平成 23 年度　総合問題　（第一部　商経学科）解答例

課題　（200 点）

問１（70 点）

【採点のポイント】

・グラフの特徴を捉えているか。
・全体の増加傾向をおさえているか。
・各部門の増減に着目しているか。
・排出区分の内訳に言及しながら，増減の理由について考察しているか。

【解答例】

2008 年度について 1990 年度と比較してみると，全体で 7.5％増加しています。その重要な理由の１つには，業務その他部門が 43.0％も増加していることが指摘できます。事務所などでは，IT 化が進むことで業務が効率化したと思われますが，電力の消費も大きく増加したのではないかと考えられます。また，家庭部門のＣＯ２排出量も 34.2％増加しています。家電製品などの省エネ化が進んでいますが，パソコンや携帯電話など，電気を消費する製品が広く国民一般に普及することで，家庭部門全体ではＣＯ２の排出量が増加したものと考えられます。一方で，産業部門のＣＯ２排出量は 13.2％減少しています。省エネ技術の発展の効果もあると思いますが，不況の影響による国内での生産活動の停滞やグローバル化による生産拠点の海外移転の促進が大きく影響していると考えられます。

問２（40 点）

【採点のポイント】

・大意を述べてあればよい。
・英文を直訳してもよい。ただし，直訳した場合，誤訳があれば減点とする。
・キーワードは以下である。

気候変動に関する国際連合枠組条約・議定書・温室効果ガスの削減・37 カ国とヨーロッパ共同体・目標を設定・2008 年から 2012 年の５年間・1990 年の総量・平均で５％削減する。（同意の言葉も可）

【解答例】

気候変動に関する国際連合枠組条約に基づく議定書である。主な特徴として温室効果ガスの削減に向けて，37 カ国とヨーロッパ共同体が拘束力のある目標を設定したことである。2008

年から 2012 年の５年間を通して，1990 年の総量に対して，平均で５％削減することをめざしている。

問３（90 点）

【採点のポイント】

・解答欄の２/３以上を使用しているか。

・**資料１**のＣＯ2排出量の動向，**資料２**の京都議定書，**資料３**のＩＣＴの効果と影響，これら３点に関する事象について触れているか。

・日本語の表現が適切であるか否か。事実認識等に誤りがあっても，論理が明快であればよい。

・ＩＣＴの活用について自分なりに考える具体的な事例を挙げているか。

【解答例】

ＩＣＴをエネルギー利用の効率化のために一層発展させ,普及させる必要があると考えます。業務その他部門や家庭部門でＣＯ2の排出量が大きく増加していますが，例えばＩＣＴを活用して空調や照明をきめ細かくコントロールして無駄をなくすことで電力消費を削減することが可能だと思います。こうした技術を，大規模商業施設全体や街全体で活用することが可能になれば，さらにＣＯ2削減効果は大きくなるのではないでしょうか。また，ＩＣＴを活用した省エネに貢献するライフ・スタイルを浸透させることも大切だと思います。例えば，オンラインショッピングがさらに普及すれば，自動車での移動の減少によって運輸部門のＣＯ2削減に寄与すると思いますし，音楽もインターネットを通じてダウンロードして楽しむ形がさらに一般的になれば，ＣＤの生産や廃棄が減少してＣＯ2を削減することにつながると思います。ＩＣＴの生産活動や生活への更なる浸透は，もはや避けられない流れだと考えられますので，そうであれば，ＩＣＴをエネルギー利用の効率化のためにさらに積極的に，大規模に活用すべきだと思います。